

---

## ウタセ真鯛の釣り方

2017年10月10日から2020年9月29日までの釣り日記から

---

### 1 仕掛けについて

自作仕掛け

ハリス5号100cm 幹糸6号 枝間120cm 伊勢尼12号3本鉤 捨て糸3号50cm

※前回、船長より「ハリスは1mで十分だろう」と言われたので、今回は1mにしてみた。

これで良かった。十分である。

### 2 釣り方

【棚を探る 餌取りの上を狙う】

※餌取りが多いとき、タイが上の方に浮いているとき、餌取りのいる層から上を狙うとき

※潮の流れが緩いとき

○餌取りのいる層より上とは、一番下のハリスはエサ取りに取られ、上2つのハリスが残るという場所。所謂、棚と呼ばれる所。餌チェックにより棚を探して、そこで待つ。ただし、一番下のハリスも餌取りに取られない方が良いので、棚より1m上と考える方法もある。

【おぼせ釣り、シンダチ釣り】

※ 程よい速さで潮が流れると、30号～40号のおもりがゆっくりと流れていく。こういった状況のときは餌取りが少ない。

○ おもりを底まで落とし、さらに道糸を3m出す。すると潮流で仕掛けが引っ張られ、道糸が張る。さらに仕掛けが流されていくと、おもりが底から浮いてくる。道糸はかなりピンと張られている状態となる。この状態でしばらく待つと当たりがある。当たりがなければ、「おもりを底まで落とし、さらに道糸を3m出して待つ。」を2～3回繰り返す。これがおぼせ釣りである。

○ おもりを底まで落とし、道糸を出さずに、そこで当たりを待つ釣り方をシンダチ釣りという。おもりの重さや潮の速さにより、おもりが底に着くやすぐに浮いてしまい、道糸をさらに3m糸を出すことができないことがある。

○手巻きのリールでは50mくらいまで、電動リールでは90mくらいまで出して、探ることができる。それ以上出すと、仕掛けの回収がたいへんであったり、時間がかかったりする。

<釣り日記>

2019年10月27日(日)

○「錘は50号か60号」とアナウンスがあった。船から遠ざかる向きに仕掛けが流れたので40号をセットして、おぼせ釣法を行った。浮き上がっているおもりを底まで落とし、さらに道糸を3mだして、潮流で糸が張るのを待つということ(おぼせ釣法)を3回くらいして待っていたら、当たりがあった。マダイだった。糸は75mくらいまで出ていた。電動リールだから90mくらいまでは出せるだろうか。手巻きなら50mまでが限界だったと記憶している。錘を3回捨てたら(道糸を出したら)、餌のチェックをすることにした。これで、2～3尾釣った。

2018年10月20日(土)

○ツレは、夕まずめに近づいてきたころ、おぼせ釣りで1尾釣った。

【餌取りをかわして本命をねらう 巻き上げで誘う】

※餌取りが多いとき、餌取りを掛けにいくときに使う。(餌取りにカワハギが混じっていることもある。)

※おぼせ釣法が使えないときに行う。

○餌取りにやられないスピードで、底から巻き上げてくる。

できるだけ遅いスピードで、かつ、餌取りにやられないスピードで巻き上げてくる。

○巻きスピードは時間帯によって変わるので、餌チェックで確認する。

○巻き上げ中に、ときどき、誘いを入れる。誘いをいれた方がよいときもある。

○仕掛けが着底したら、すぐに巻き上げに入る。スピードは考えなくてよい。糸が張ってから調整すれば良い。

○今日は底から5mまでが当たり棚だった。当たりがなければ、底から5mまでを3回繰り返した。それでも当たりがなければ、餌チェックを行った。

## <釣り日記>

2020年9月29日(火)

○「餌取りがいるので、巻き上げながら誘うといい。タイが喰ってくるスピードで巻き上げて」ともアナウンスもあった。初めスピード3でやってみた。ダメだった。スピード8でやってみた。ダメ。スピード5で試した。ヒットした。タイだった。スピード5がよいことが分かったので、これを繰り返した。

○移動後、底で釣っていたが、さっぱりダメ。「底に置いておくだけでは餌取りにやられるだけ。餌取りをかかわすために巻き上げスピードを変えたり、時々、誘いを入れたりする。」とアドバイスをもらった。そこで、タイが喰ってくる巻きスピードは5ということをやっていたが、もう一度スピードを変えてやってみることにした。スピード5の巻き上げでは、餌取りにやられてしまう。スピード8でやってみると、餌取りにやられないことが分かった。しばらくすると、ヒットした。スピード11でもヒットすることがあった。

○定速の巻き上げだけでなく、時々、誘い(軽くしゃくる)を入れるとも聞いたので試した。1回だけヒットした。

○「鯛ラバやジグでは落ちてくるものに興味を示す。着底後、止めてしまうと魚に見切られてしまう。」ということであるので、餌であっても同様と考えた。着底したら素早く糸ふけを取り、巻き上げることを心がけた。これも良かったと思う。巻き上げ後すぐに当たるということも何度かあった。

○船長のアドバイスで、「巻きスピード、誘いを入れるなど、餌取りをかかわして本命を狙う。おもりの重さを変えることも重要。」とあった。今日はおもりを変えることをしなかった。

○振り返ってみれば、ウマヅラハギやホンハギを5尾も釣った。巻き上げで釣っていたからであると思う。

2017年10月10日(火)

○初めは小鯛釣り。入れ掛かりであった。底まで落とすと掛かっている。当たらなければ、スローで5m巻き上げる。5m巻き上げたら底まで落とす。底まで落としたとき、すぐに巻き上げる。これが誘いとなる。いろいろ試す。小鯛釣りでは、(または、入れ掛かりタイムであるから)、待っているより、誘いを掛けた方がよいと考えた。手返しよく釣ることも心がけた。

小ダイ、小チダイ 22尾 自分 14尾 ツレ 8尾

※小鯛釣りの入れ掛かりタイムは、積極的に誘う。

## 【竿の振り上げで誘う】

○「竿先をゆっくり大きく振り上げる。竿先が上まできたら待つ。当たりがなければ、リールを3回巻きながら竿先を下げる。イメージとしては、竿で2m仕掛けを持ち上げ、仕掛けの位置は変えずに竿先を下げてくるという感じである。

○これを2回繰り返す、それでも当たりがなければ、仕掛けを底まで落として、やり直す。これで掛からなければ、餌をチェックする。

○竿を持ち上げてくるときや、竿を振りきって待っているときに当たりがあった。当たりがあったら、高速で

糸を巻き上げ、これにより竿先が下がったら合わせる。タイが乗っていると、グングンと竿先が引かれる。乗っていなければ、もう一度試みたり、餌をチェックしたりした。

<釣り日記>

2019年10月27日(日)

○これで数を伸ばした。ダブルも1回あった。夕まずめ前から夕まずめにかけての頃だった。

【おもりを底に着けて、仕掛けを吹かせておく】

○「おもりが底をたたくようでは釣れない。おもりを浮かしておくか、底につけておく。」と聞いたことがある。これまでおもりを底につけて、糸を吹かせておいた方が釣れたという実績がある。

○おもりを底に付けて糸ふけを出す。当たりがなければ、5mくらい巻き上げて再び落として糸ふけを作る。

○竿先から出た糸ふけは、仕掛けが潮に引っ張られることによって、だんだんと張ってくる。この間、餌のエビは自由に泳いでいたり、海中で漂っていたりするのだろう。この自然な感じがタイに違和感を与えないのだと思う。ただし、当りは分からない、分かりづらい。

○極めて軽いおもりを使って、ゆっくり落とす。おもりでリールが回転しないので、ラインを手で引き出しながら落としていく。事前に重いおもりで水深を確かめておく。

○糸を吹かせる量で釣果が変わることがある。

<釣り日記>

2020年9月29日(火)

○おもりを底につけたままで、糸を吹かせておくという釣り方で試した。これが良かった。連続ヒットとなった。ダブル、トリプルもあった。隣の方に上手だと褒めてもらった。

2020年5月26日(火)

○少しふかせぎみにして置き竿にした。当たりらしきものがあったので合わせてみた。ヒットした。(マダイ30cm)

○ツレは、着底後、仕掛けを浮かして釣っていた。ふかす量が少ないのかと思い、ふかす量を多くして再度釣ることにした。するとヒット。強烈な引き方だ。インダイ47cmだった。

○ふかす量が少ないと潮ですぐにハリスがピンと張られてしまう。ふかす量を多くすると、エビがふわっと泳いでる時間が長くなるというイメージかなと思う。

2019年10月20日(日)

○おぼせ釣法をやろうとしたが、ほんのわずかに流れるだけ。錘は転がらない。ふけさせる糸の量を少なくしたり、出し過ぎたときにはふけた糸を取ったりした。これで入れ掛かりとなった。餌チェックで巻き上げに喰ってくることもあった。マダイ8枚

2018年10月20日(土)

○餌取りはいない。底で釣った。おもりが底をたたくことのないように、おもりを底に落として、少し糸ふけを出して釣った。これでよく掛かった。

【底から1m上げておく】

<釣り日記>

2019年10月20日(日)

○やがて、ツレが44cmを釣った。ツレは、錘が底を叩かないように、錘を底から1m上げて釣ったとのこと。

2018年10月20日(土)

○ツレは、おもりが底をたたかないように1mほど上げておいたとのこと。ツレもよく釣っていた。

## 【おもりを変える】

### <釣日記>

- 更に潮がきいてきた。おもり30号でおぼせ釣りを試みた。しかし、当たりがない。撒かれたエビと、仕掛けが同調してないのではないかと考えた。おもりを40号に代えた。着底後、糸をふかせてみたらヒット。マダイだった。おもりを代えたことにより、仕掛けが落ちる場所が変わったのであろう。

## 【夕まずめ】

- 夕まずめは底で待つ。

### <釣日記>

2019年10月27日(日)

- 暗くなってきた。餌チェックで餌が残ってくる。餌取りがいなくなった。餌取りがないので底で待つことにした。しばらくして当たりがあった。大きく合わせた。かなり引く。上の鉤に30cmクラスが、下の鉤に25cmクラスのタイが掛かっていた。

2017年10月10日(火)

- 夕まずめに近づき、船長から、「30mより深いところで釣る。エサ取りにやられるから、頻繁にエサチェックをする。」とアナウンスがあった。30mより深いところは、底であった。結局、二人とも夕まずめに当たりはなかった。

## 【棚】

### <釣日記>

2020年9月29日(火)

- 底から5mまでが当たり棚であった。「底から10mまでを狙う」というアナウンスだったが、6m以上で当たることはなかったので、底から5mまでと考えた。電動リールでの巻き上げでは、“底から5mまで”を3回くらい繰り返す、当たりがなければ、餌チェックとした。

- カンパチを2尾釣った方が終了後、「カンパチは底から5m上だ」とつぶやいていた。

2019年10月20日(日)

- 餌取りはいるものの、釣れるのは底である。

## 【その他】

- 釣れないと感じたら、いろいろ試すことだ。
- 釣日記を読んでから釣行したい。